

I.	会社概要	3
II.	当期の事業概況	9
III.	2019年3月期決算概要	14
IV.	2020年3月期計画	24
V.	今後の成長戦略	28

I . 会社概要

商号

共栄セキュリティーサービス株式会社

本社所在地

〒102-0074
東京都千代田区九段南1丁目6番17号 千代田会館

代表者

代表取締役社長 我妻 文男

設立

1985年5月

資本金

4億9870万7000千円

事業内容

施設警備、雑踏・交通誘導警備を中心とした警備業

グループ会社

連結子会社1社（株）道都警備）
関係会社1社（株）CSPパーキングサポート）

連結従業員数

正社員423名 契約社員等1,235名 ※1

※1 契約社員等は年間平均人員です



警備業界の **わずか1%** (※) のみ **が実現する広域エリアカバー。**

※ 警察庁「平成29年における警備業の概況」より、10以上の営業拠点を有する業者数（単体ベース）

首都圏エリア

事業所数 **6** 拠点



北海道エリア

事業所数 **3** 拠点



東北エリア

事業所数 **4** 拠点



関西・東海エリア

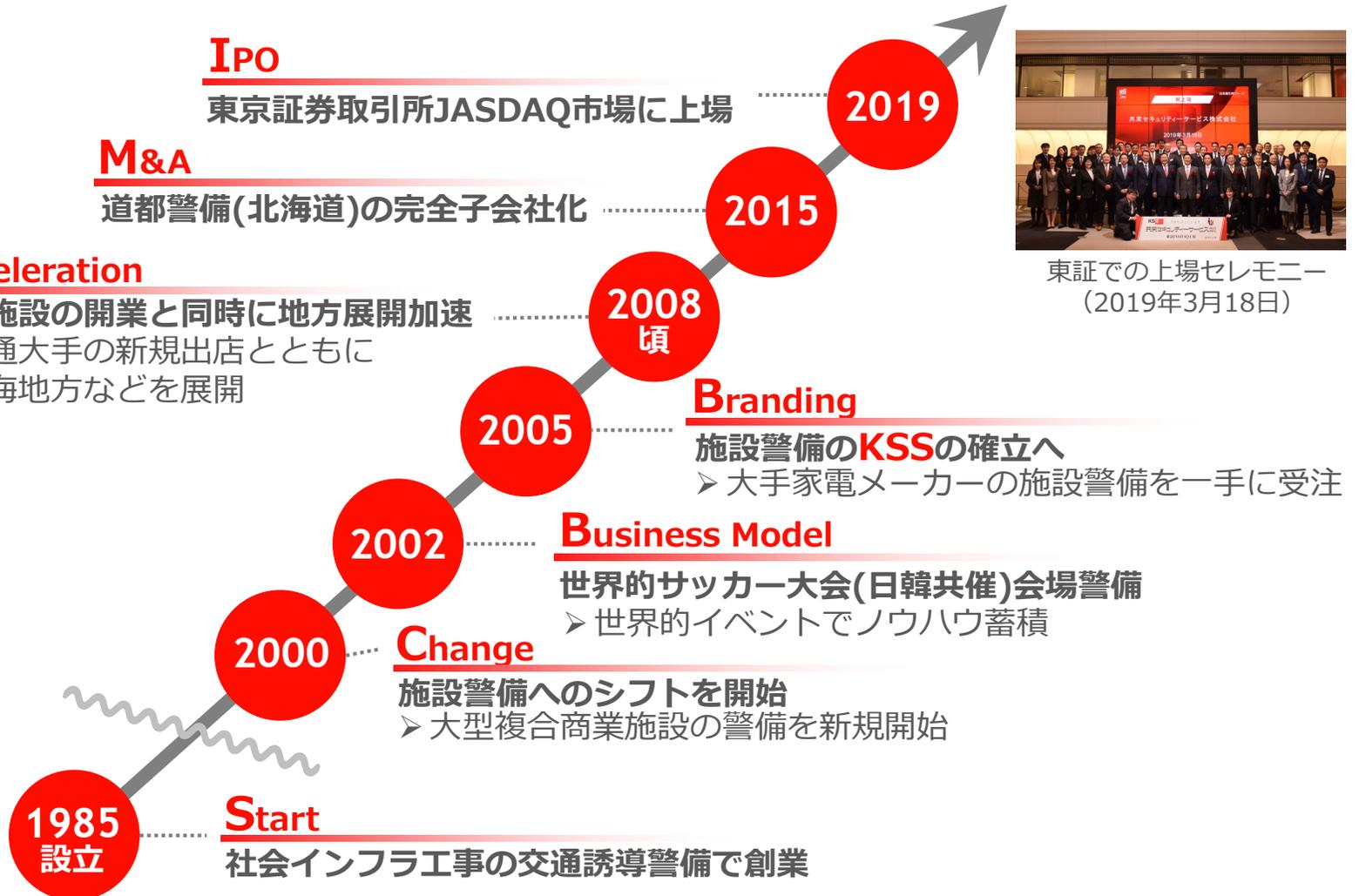
事業所数 **4** 拠点



グループ合計 **17** 拠点

※持分法適用関連会社を除く。

交通誘導警備から施設警備へ。そして上場へ…



創業から取り組んでいる
交通誘導警備
(1994年頃撮影)

「水と安全はタダ」ではない！ 人的警備から軸足ぶらさず社会需要に対応。

➤ 当社グループの報告セグメントは「警備事業」の単一セグメントとしておりますが、業務内容を3つのフィールドに分けて考えています。

施設・巡回警備分野



施設警備



レセプション・コンシェルジュ



駐車場警備



空港消防業務

雑踏・交通誘導警備分野



交通誘導警備



イベント警備



ハイウェイセキュリティ

その他



ボディーガード



マンション代行管理



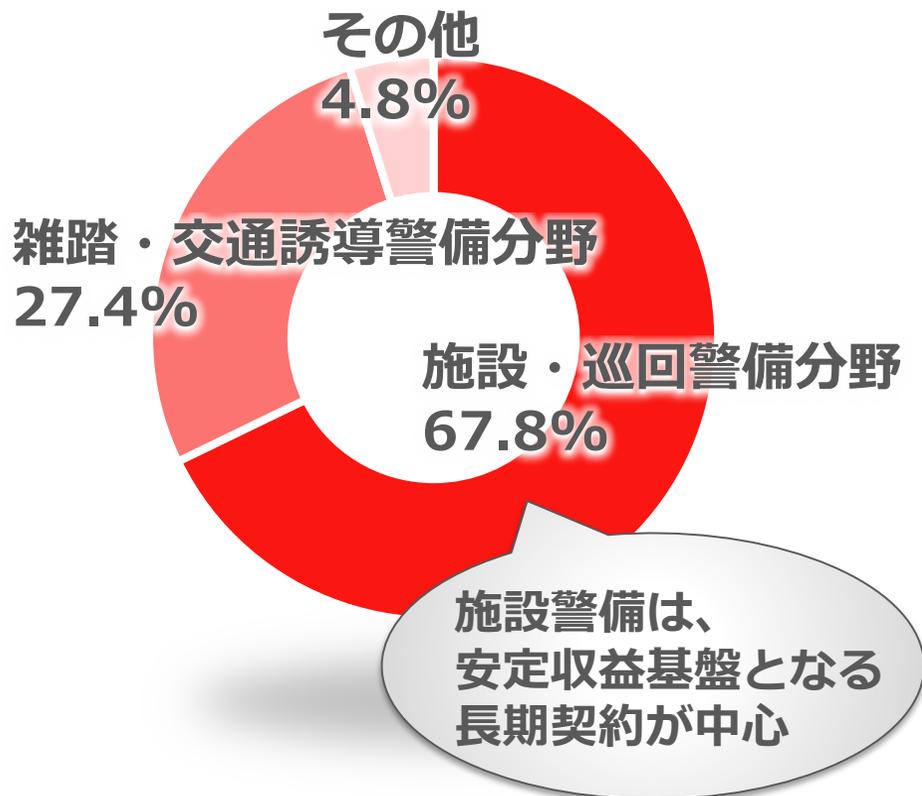
駐車場運営管理



建物・設備管理

ストック型ビジネスが中心の施設警備を主力とした事業展開。

単位：百万円



分野名	2019年3月期	
	売上高	構成比
施設・巡回警備分野	3,852 (前年比7.5%増)	67.8%
雑踏・交通誘導警備分野	1,558 (前年比0.2%減)	27.4%
その他	271 (前年比33.6%増)	4.8%

Ⅱ.当期の事業概況

ストック型案件の着実な拡大と鉄道関連案件の拡大。

■ 施設警備の新規案件開始



- 大手企業オフィスビル
- ロジスティクスセンター等
(宅配業者様の物流センター)

長期かつ定額契約である
ストック型案件の
着実な積み上げ

■ 鉄道関連案件の拡大



- 列車内の警戒（警乗）
- ホームや鉄道施設のパトロール

「鉄道警備隊」として
大都市圏の在来線や新幹線で
展開を加速

当期の特徴的な取り組みである事故・災害派遣とスポーツイベント対応。

■ 事故・災害派遣として隊員急派



- 新幹線内での事件を受けて、
鉄道警備隊員を急派
- 西日本豪雨での公共交通機関寸断により
案内・安全確保隊員を急派

社会的意義の大きい案件のため
最優先で対応

■ スポーツイベントへの取り組み



- ラグビー国際試合
- マラソン大会・駅伝大会
- ゴルフメジャートーナメント
- ボウリングトーナメント(P★League)

**ラグビーW杯や
東京五輪・パラリンピックに向けた
警備実績の積み上げ**

人手不足に負けない！幅広く多様な人財獲得のための採用強化政策。

■ 社員寮



全国各地（※）に**200戸**近くの**完全個室社員寮**があります。格安な家賃による住宅費負担や、家具・家電などの生活費負担を会社がサポートしています。



- 採用活動において**地方出身者**取り込みの優位性が向上。
- 既存社員に提供することで、**離職率低下**が期待。
- フルタイム社員の囲い込みで、**稼働率上昇**と**収益安定性**向上が期待。

※ 社員寮所在地
五反田、川崎登戸、大宮、千葉市川、名古屋、大阪、札幌

■ 女性とアクティブシニアの活用



時短勤務などの多様な**働き方**と**ライフスタイル**を、女性とアクティブシニアに提案し、**積極採用**に取り組んでいます。

■ 警備員採用の専任担当者



地域間の情報共有を推進して**採用効率向上**に取り組むとともに、本社担当部門による統括オペレーションによって**募集広告費の費用対効果UP**に取り組んでいます。

ゾンビが登場するインパクトあるTVCM放映で企業認知度向上活動。



CMは「迫り来る脅威」というテロップやゾンビの襲来に逃げ惑う人々といった映画予告風の映像に始まる。

「日常への不安がいまそこに。そのとき」というナレーションがかかり、画面がシネマスコープサイズからテレビサイズに切り替わると、同社の警備員が「どうも、お疲れさまです。入館正を拝見できますか」とゾンビの前に立ちどかる。

そして警備員やボディーガードなどの社員が次々と映し出され、3人の社員に「今日も、そこにいます。」のコピーが重なるストーリーだ。「いつも人々のそばにいる」というメッセージを伝えた。

※CM総研『CMINDEX』2019年5月号より

今日も、そこにいます。

当社は、創業以来、現場の先頭に立ち、かけがえのないものを守るために、ひたすら黒衣に徹してまいりました。**先頭に立って、裏方に徹する。**お客様がいつも安心して過ごすことのできる1日のために当社の警備員がいることを、「今日も、そこにいます。」という言葉に込めております。

Ⅲ.2019年3月期決算概要

増収増益、そして売上・利益ともに過去最高を達成！

(単位：百万円)

	'18/3期	'19/3期 (予想)	'19/3期 (実績)	増減額	増減率	予想差異	予想対比	参照ページ
売上高	5,347	5,677	5,682	+334	+6.3%	+5	+0.1%	P.17
営業利益	305	390	403	+98	+32.2%	+13	+3.4%	P.18
経常利益	388	416	426	+37	+9.7%	+10	+2.4%	P.19
親会社株主に帰属する 当期純利益	260	277	277	+16	+6.5%	±0	±0.0%	
1株当たり 当期純利益 (円)	249.56	257.71	261.77	+12.21	+4.9%	+4.06	+1.6%	
R O E (%)	11.5	—	9.3	—	△2.2 ※1	—	—	
P E R (倍)	—	—	10.6	※2	—	—	—	
1株当たり 配当金 (円)	—	75.00	75.00	—	—	±0	±0.0%	P.33
連結配当性向 (%)	—	29.1%	28.7%	—	—	—	—	P.33

※1 上場に伴う増資で純資産が増加したことにより、前年比減となっています。

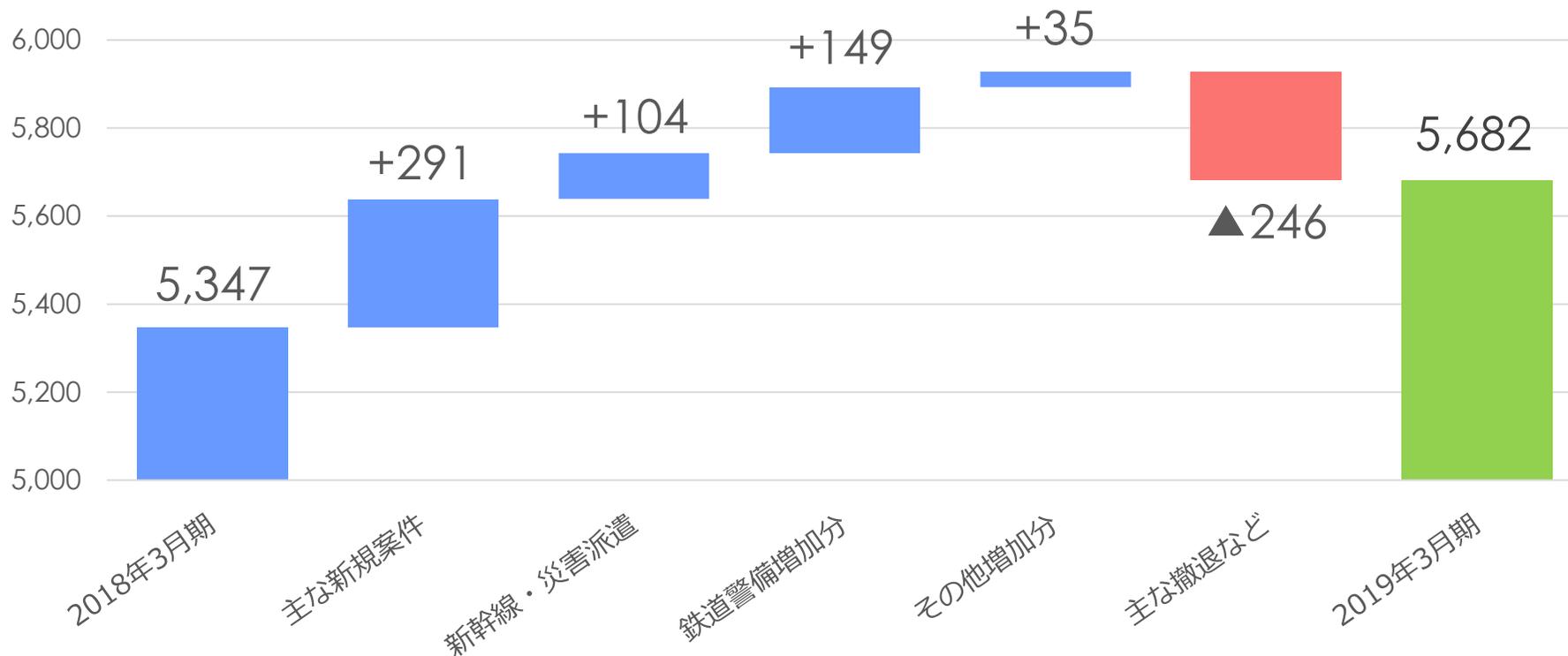
※2 期末日の株価（2,720円）によるPERです。

(単位：百万円)

	'18/3期	'19/3期	増減額	増減率	主な増減要因
売上高	5,347	5,682	+334	+6.3%	▶ 新規案件、事件・災害派遣、鉄道関連案件などの増加  P.17
売上総利益	1,208	1,463	+254	+21.1%	
売上総利益率	22.6%	25.8%		+3.2%	▶ 高利益率案件の優先的対応などによる増益  P.17
営業利益	305	403	+98	+32.2%	▶ 募集費、地代家賃、外形標準課税などこなしして大幅増益  P.18
営業利益率	5.7%	7.1%		+1.4%	
経常利益	388	426	+37	+9.7%	▶ 持分法投資損失、上場関連費用などこなしして増益  P.19
経常利益率	7.3%	7.5%		+0.2%	
法人税等合計	129	146	+17	+13.4%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	260	277	+16	+6.5%	

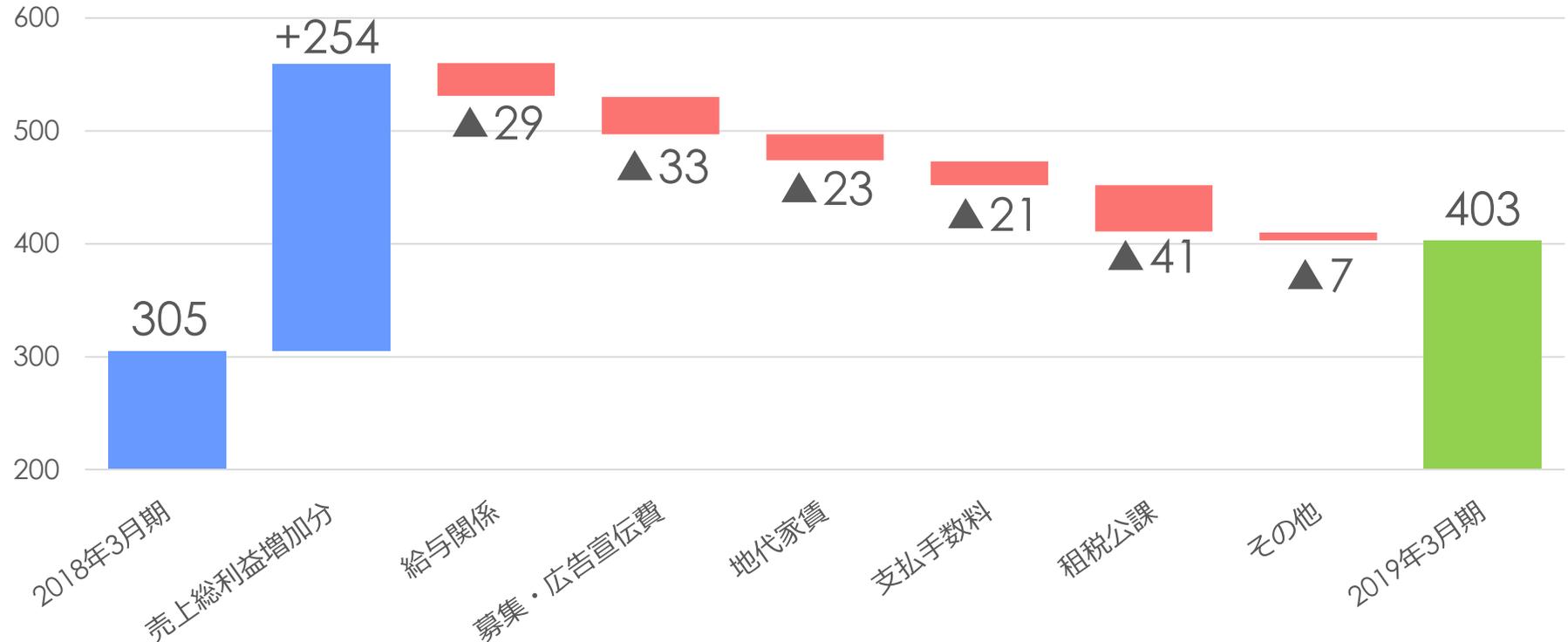


単位：百万円



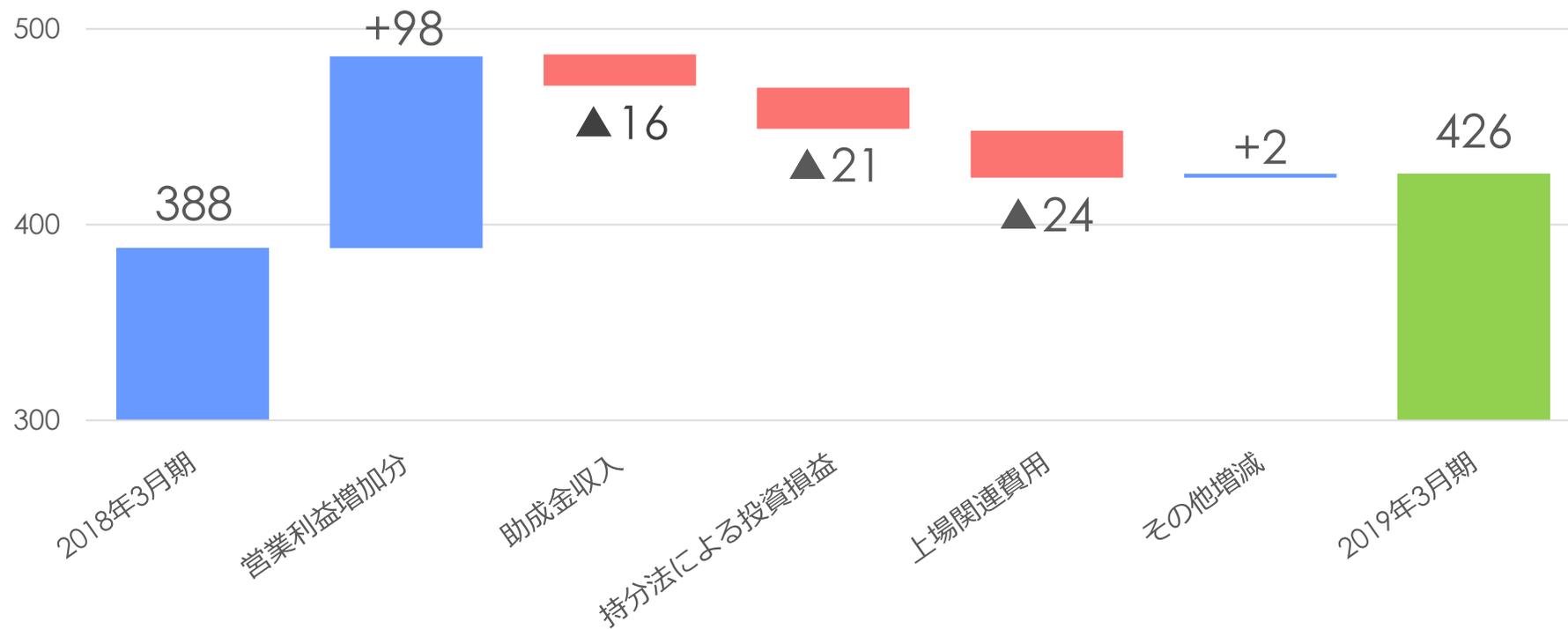
**不採算案件の撤退に取り組むと同時に、
高利益率案件の事件・災害派遣への優先的対応等により、
売上総利益率は25.8%(前期比+3.2%)と大幅UP！**

単位：百万円



**募集・広告宣伝費、社員寮の地代家賃、外形標準課税の適用などの費用も、
売上総利益増加分で吸収し、大幅増益！**

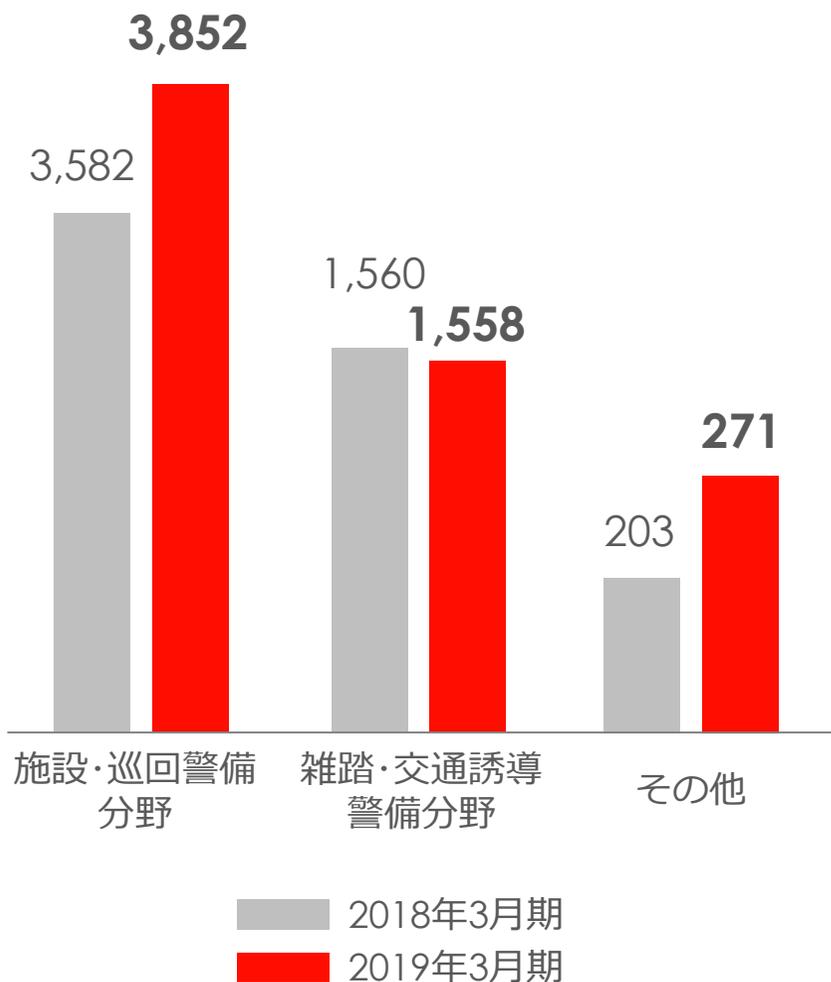
単位：百万円



上場関連費用などの費用発生するも、
営業利益増加分で吸収し、大幅増益！

分野別売上高前期比

単位：百万円



分野名	'18/3期	構成比	'19/3期	構成比
施設・巡回警備分野	3,582	67.0%	3,852 (前年比7.5%増)	67.8%
雑踏・交通誘導警備分野	1,560	29.2%	1,558 (前年比0.2%減)	27.4%
その他	203	3.8%	271 (前年比33.6%増)	4.8%
合計	5,347	100.0%	5,682	100.0%



連結貸借対照表

単位：百万円

	'18年3月末	'19年3月末	前期比増減	主な増減要因
資産合計	3,063	4,359	+1,295	
現金及び預金	1,200	2,553	+1,353	▶ 新規上場の資金調達、利益計上
受取手形及び売掛金	596	595	△0	
有形・無形固定資産	370	344	△25	▶ のれんの減少
投資その他資産	852	810	△41	▶ 保険積立金の減少
負債合計	679	797	+118	
支払手形及び買掛金	38	25	△13	
未払金	407	470	+63	▶ 事業拡大に伴う人件費の増加など
未払法人税等	52	125	+73	▶ 事業拡大に伴う増加
純資産合計	2,384	3,561	+1,176	
自己資本比率	77.8%	81.7%	+3.9%	

強固な財務基盤

単位：百万円

	2018年3月末	2019年3月末	前期比	主な増減要因
営業CF	153	389	+236	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 当期純利益の計上 ▶ 事業拡大に伴う人件費や広告宣伝費の未払金増加
投資CF	△24	69	+93	▶ 保険積立金の解約
財務CF	△19	893	+913	▶ 新規上場に伴う新株発行
現金及び 現金同等物の 期末残高	624	1,976	+1,352	

下半期以降の採用活動が好調に推移したことにより**4%の増加**

単位：人

	2018年3月期末	2019年3月期末	前年対比
正社員	430	423	▲8
契約社員等	1,165	1,235	+70
合計	1,595	1,658	+63

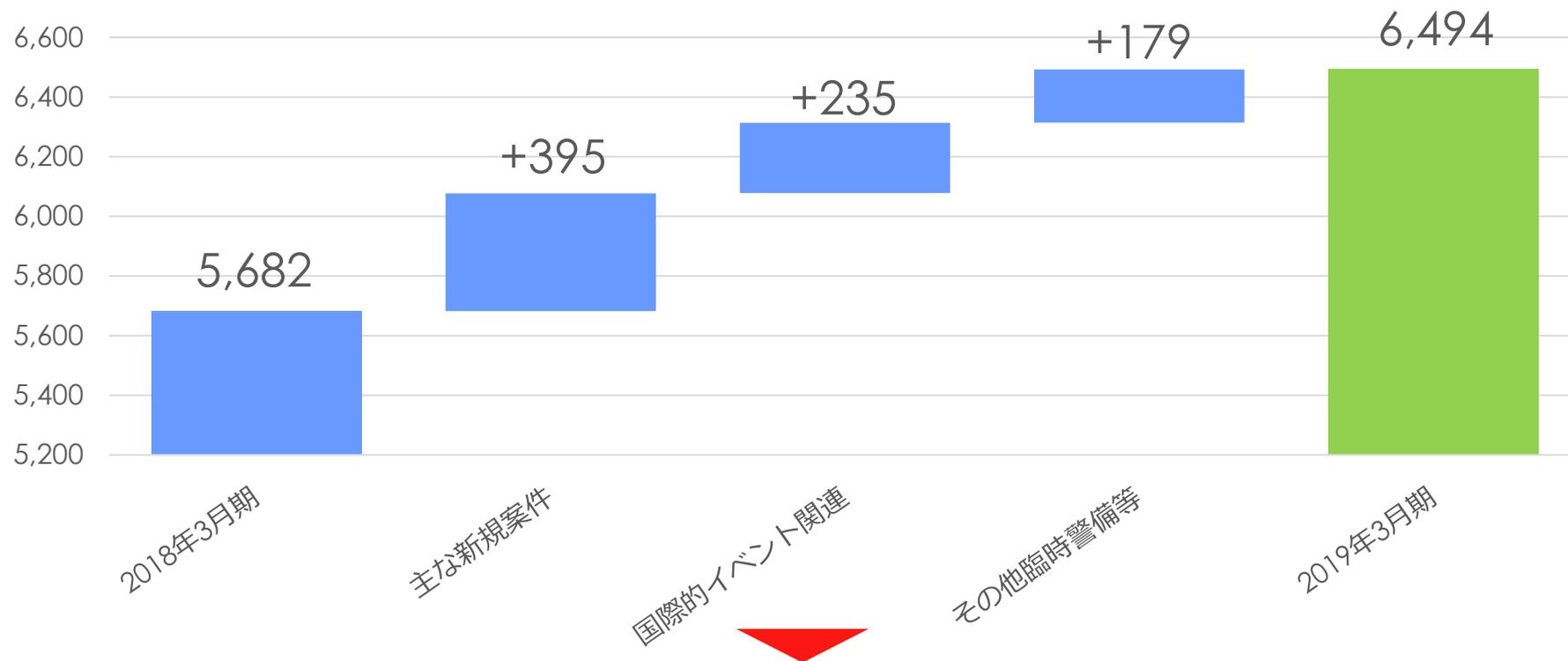
※ 契約社員等は契約社員等の期中平均値です。

IV.2020年3月期 計画

高まる警備需要を背景に、売上・利益ともに**10%超の増収増益見込み**

(単位：百万円)

	2019/3期	2020/3期	増減額	増減率
売上高	5,682	6,494	+812	+14.3%
営業利益	403	472	+68	+17.0%
営業利益率	7.1%	7.3%		+0.2%
経常利益	426	506	+79	+18.6%
経常利益率	7.5%	7.8%		+0.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	277	322	+44	+16.2%



ストック型案件の新規契約に引き続き取り組むとともに、
20カ国・地域首脳会議やラグビーW杯など
国際的イベントに伴う需要の取り込みにより、
大幅増収を計画しています。

単位：人

	'19年3月末	入社	退社	正社員転換	'20年3月末	前年比
正社員	423	—	▲10 (▲20)	50	463	+40
契約社員等	1,235	500 (1,000)	▲227 (▲455)	▲50	1,458	+223
合計	1,658	500 (1,000)	▲247 (▲475)	—	1,921	+263

※ 表中の人員数は、'19年3月末の正社員を除いて、期中平均値としております。

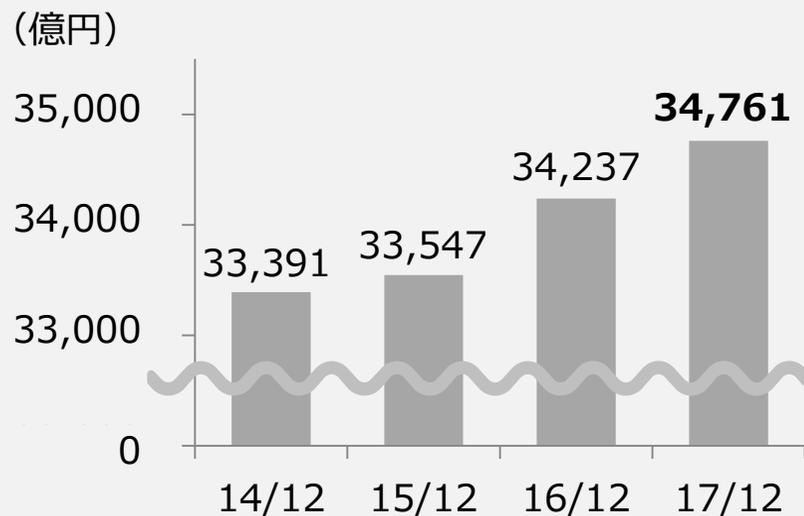
※ ()内は、採用計画人数の実数です。

通期平均263名純増、業容拡大を計画しています。
また、契約社員から正社員への転換により、
稼動時間数を上昇させ、業績拡大してまいります。

V. 今後の成長戦略

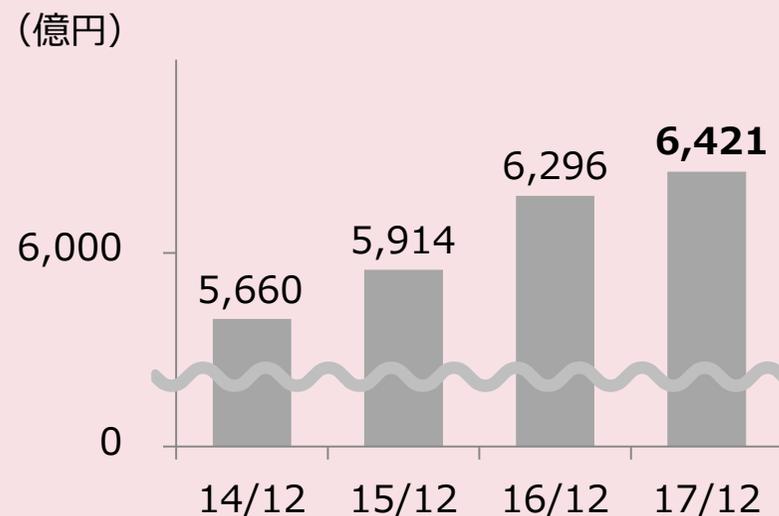
約 2 兆 8 千億円強のマーケットがターゲットです。

■ 警備業全体のマーケット



(出典) 警察庁生活安全局生活安全総務課「警備業の概況」を基に当社作成

■ うち、機械警備業のマーケット



(出典) 公益社団法人日本防犯設備協会ホームページを基に当社作成

防犯・防災意識の高まりから増加するニーズを背景に、
機械警備を除く人的警備のマーケット約 **2 兆 8 千億円強**を
当社グループはターゲットとしています。

大型イベント警備を起爆剤として、生まれ変わる社会インフラに対応。



50年に一度の“国際的イベント”の警備業務を積極受注

国民的イベントへの取り組みによる社会的認知度・信用度UPと大量採用

安定成長への大きな糧となり、その後の成長へ…。

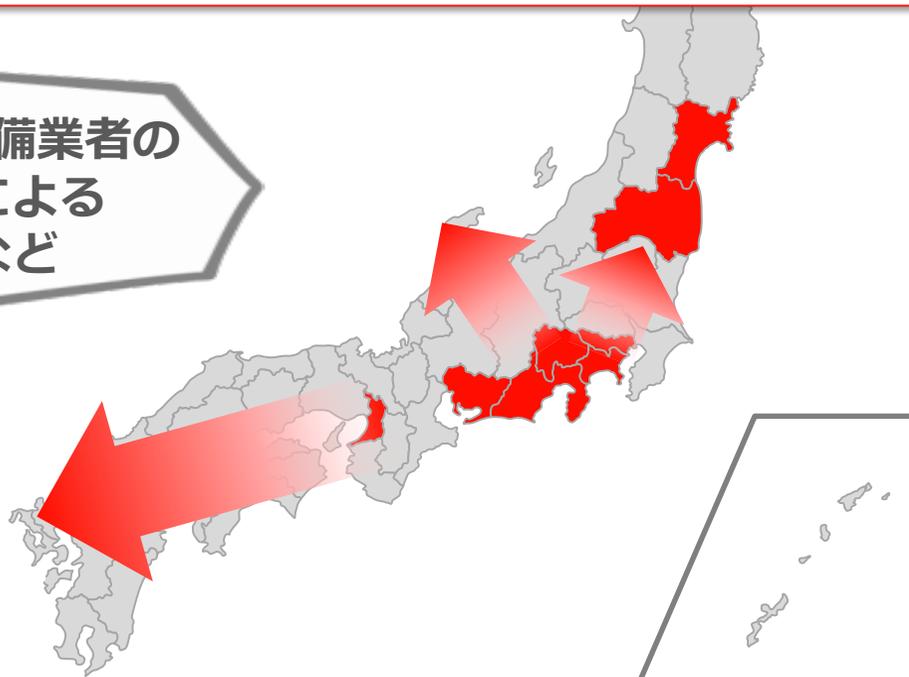
イベント後の都市再開発、IR（統合型リゾート）、大阪・関西万博、リニア・新幹線開通で生まれ変わる中部圏、北海道にも積極対応！

未進出エリアへは、M&Aやアライアンスを含めて検討。

広域エリア展開実施中と言えども、
まだまだある**未進出エリア**と**ビジネスチャンス**

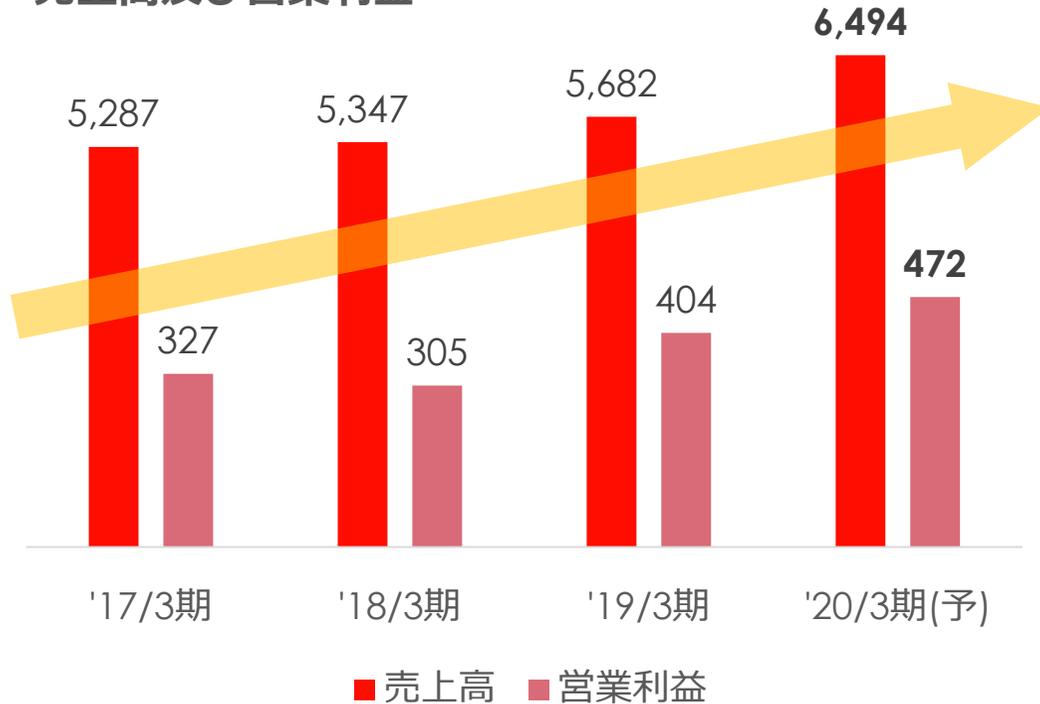
M&Aや**アライアンス**も選択肢のひとつ。
事業エリア拡大や人材確保を目的に案件を選定していく。

全国に9,500ある警備業者の
経営者の高齢化による
事業承継問題など



高まるニーズ警備需要を背景に、業容を拡大してまいります！

売上高及び営業利益



総勢 **1万人**の隊員数を誇る
警備会社を目指します！

人員確保と離職率低下に全力で取り組み、
成長を加速！

安定的かつ継続的な利益配分を実施してまいります。

2019年3月期 (予想)

1株当たり配当金 **75円** (うち、上場記念配当**25円**)

配当性向(連結) **28.7%** ※期末値ベースで**40.8%**

◆ 期末日に近い2019年3月18日に、新規上場に伴って新株46万株を発行しているため、参考値として期末発行済株式数による配当性向を計算してみました。

➤ 通常の連結配当性向の算出

1株当たり配当金
75円

÷

当期純利益
277,010千円
——
期中平均株式数
1,058,226株



1株当たり
当期純利益
261円77銭

配当性向
= **28.7%**

➤ 期末値ベース=期末発行済株式数による1株当たり当期純利益から、連結配当性向を算出した場合

1株当たり配当金
75円

÷

当期純利益
277,010千円
——
期中平均株式数
1,506,500株



1株当たり
当期純利益
183円88銭

配当性向
= **40.8%**

➤ (ご参考) 実際の配当総額と当期純利益で、連結配当性向を算出した場合

配当総額 (75円×1,506,500株)
112,987,500円
——
当期純利益
277,010,000円

配当性向
= **40.8%**

- このスライドには、当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。

本資料に関するお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

共栄セキュリティーサービス株式会社 経営企画部
TEL : 03-3511-7780 FAX : 03-3511-7781
E-mail : ir@kyoei-ss.co.jp

今日という日が、
みなさまにとって、
いつもの1日であるように。

私たちは、
今日も、そこにいます。



共栄セキュリティーサービス

< 東証 JASDAQ 上場 >

